

官衙施設と官道

現在、京都府では京都府庁、各市町村には市役所・町役場があります。また、各警察署、裁判所などいろいろの公的施設があります。

飛鳥・奈良時代には、隋・唐の影響を受けて律令国家に移行しますが、その体制のなかで、古代国家が設定した地方行政区として国・郡があります。各国・郡には^{こくちやう}国庁（^{こくふ}国府）・^{ぐんが}郡衙がおかれます。また、都と国府・郡衙へは山陰道・山陽道・北陸道など幹線道路が整備され、三十里（約16km）ごとに^{うまや}駅家が設置されていました。

国庁・郡衙を含めた^{かんが}官衙施設の建物は、中心建物（^{せいでん}正殿）のほか、その両側に配置された脇殿、税として納められた穀物・米を保管する倉庫群などが整然と配置されています。その建物群は立地する地形にも左右されますが、正方位（真北）を意識して造られます。

発掘調査で見つかった建物群を見ていくなかで、各建物の柱間が約30cm（一尺）の倍数であるか、建物の方角が北を意識しているか、建物配置が整然と並んでいるか、その調査地が旧国・旧郡のどの場所にあるのか、周辺に古代の道路があるのかなどを検討した上で、その建物群が古代官衙施設であるかどうかを判断します。



大型建物が整然と並ぶ桑飼上遺跡

京都府内で建物遺構から官衙施設として考えられる遺跡には、舞鶴市^{くわがいかみ}桑飼上遺跡、綾部市^{あおのみなみ}青野南遺跡、南丹市^{やぎのしま}八木嶋遺跡、亀岡市^{いけじり}池尻遺跡、城陽市^{しょうどう}正道官衙遺跡、同市^{しばやま}芝山遺跡などがあります。

丹波国府推定地には亀

岡市池尻遺跡がその可能性が高い遺跡として考えられています。

郡衙遺跡には久世郡衙の候補地として城陽市正道官衙遺跡があります。この遺跡は7世紀後半から9世紀前半にかけて整然と並んだ大型掘立柱建物跡が見つ



大型建物が並ぶ芝山遺跡

かっています。これらの建物は3期に分けて建て替えがおこなわれています。同じ城陽市で正道官衙遺跡から南東方向へ約1kmの位置に芝山遺跡があります。この遺跡でも整然と並んだ大型掘立柱建物群が見つかりました。これらの大型建物跡も方位と建物配置から、1期は大型建物群の確立時期、2期は建物群の衰退期、3期は官道の廃絶に伴う官衙機能の消滅時期と考えます。建物群の時期については柱掘形内から明確な時期を示す土器はあまり出土していません。しかし建物群を造るために墳丘が削平された円墳があり、その古墳の周溝から7世紀後半～8世紀初頭の土器が出土しています。建物の造られた時期はその頃と思われます。また、この遺跡では、幅12mの間隔で平行する南北方向の溝が2条見つかっており、道路側溝の痕跡と考えられています。これらの道路状遺構は、古代官道の北陸道や東山道の一部であると推定されています。現在、芝山遺跡の南東側に隣接する丘陵に小字「鷺坂山」^{さぎさかやま}の地名が残っていますが、『万葉集』の雑歌に「たくひれの 鷺坂山の 白つつじ 我はにほはね 妹に示さむ（『万葉集』巻九 1694）」など、「鷺坂山」を詠んだ歌が残っています。

この道路の一部は現在でも奈良街道として受け継がれています。

（柴 暁彦）